

『新編 一宮町史』 編さん事業の活動報告

No.6 新収蔵!

風船爆弾関係資料 (近現代)

町では、令和4年度から10年計画で新たな町史『新編 一宮町史』の編さん事業を行っています。

旧『一宮町史』は、昭和39年(1964)に刊行され、刊行後60年が経過しています。

地域のアイデンティティである郷土の歴史を後世に伝えていくべく、編さん委員会を中心に調査活動を進めています。

このコーナーでは調査活動の様子を随時紹介していきます。今回は風船爆弾関係資料について紹介します。

令和7年8月、NHKのニュース番組にて「風船爆弾の記憶 後世にあつた地域での取り組み 千葉県一宮町」と題した特集が放送され、学芸員の私も出演しました(現在NHKのHP「ちばWEB特集」にて内容を公開中)。

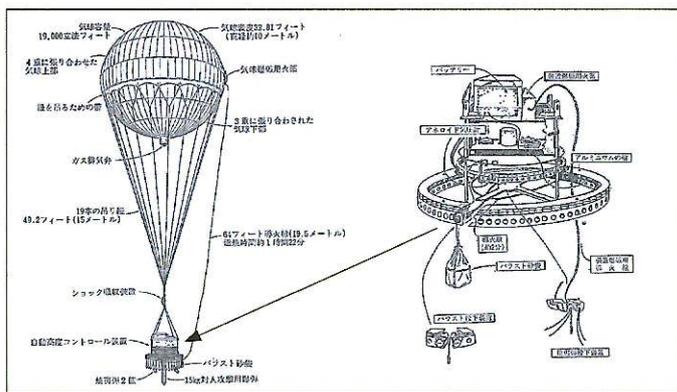
この放送後多くの反響があり、町内、県内外からさまざまな情報提供がありました。その中で新たに2つの資料の寄贈をいただきました。ここではその資料を紹介しします。

Q1. 風船爆弾とは?

風船爆弾とは、和紙をコンニャク糊で何層にも貼り合わせた直径約10mの気球に水素を込め、焼夷弾などを吊るした気球爆弾です。気圧の変化によって高度が下がるたびにバラスト(砂袋)が自動的に投下されて高度を維持し、すべてのバラストを落下させた後に焼夷弾が投下されます。気球を含め総重量は182kgだったといえます。

風船爆弾は、秋から冬にかけて吹く偏西風に乗って最高時速300km程度で飛行、北米大陸には約50時間で到達しました。打ち上げは昭和19年(1944)11月から翌年5月頃まで行われました。

打ち上げ基地は福島県勿来(いわき市)、茨城県大津(北茨城市)、千葉県一宮の3ヶ所に置かれました。この3ヶ所の基地から約1万発が打ち上げられ、北米大陸に約1,000発が到達したと言われています(諸説あり)。

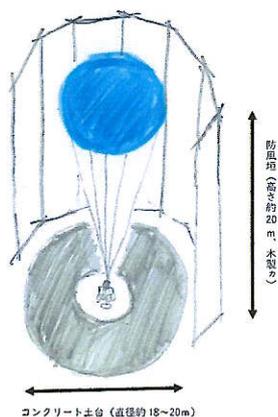


▲風船爆弾の構造 (木下健蔵『消された秘密戦研究所』(信濃毎日新聞社、1994年)掲載図より引用)

Q2. 一宮の打ち上げ基地はどのような姿をしていたのか?

戦時中は現在の役場の前の道、一宮停車場線に沿って線路が敷かれ、水素ボンベなどの資材の運搬に使用されました。駅から海岸の基地までは荷物を積んだ貨車を牛が引いていたという証言もあります。打ち上げ基地、といっても大規模な施設が作られたわけではありません。気球を膨らませる際に固定するための直径約18~20mのドーナツ型のコンクリートの土台が12基、そのうち北側の5基には風除けのための高さ約20mの防風垣が作られたといえます。このほかおそらく打ち上げ部隊のための小規模な兵舎も作られたものとみられます。

基地の概要については資料が残っておらず、不明な点が多いです。証言もほとんど残っておらず、数少ない手掛かりから少しずつ復元していくしかありません。



▲一宮打ち上げ基地推定図 (江澤作)

次に、新しく寄贈を受けた資料を紹介します。

(1) 風船爆弾用のロール紙
(大きさ: 幅約79・5cm、
ロールの厚さ約30cm)

新潟県在住の方から寄贈された資料です。

風船爆弾の気球部分は膨らませると直径約10mにもなります。そのため多数の和紙と張り合わせるためのコンニャク糊が必要となり、日本各地の製紙工場などで大量生産が行われました。

このロール紙もそのうちのひとつで、寄贈者の御尊父が戦前に日本針布株式会社(東京都調布市、現在はない)に勤めており、同社で作成された風船爆弾用のロール紙です。戦後、処分される前に持ち出されて今に伝わり、今回のNHKの放送を機に寄贈をいただきました。

一宮町にあったのは風船爆弾の打ち上げ基地であり、部品の製造工場があったわけではありません。そのため、製造過程の資材は地元には残されていません。こういった点からも貴重な資料と言えるでしょう。



▲風船爆弾用ロール紙

(2) 風船爆弾 爆弾部分の
時限信管カおよび箱ボール紙

(大きさ: 高さ約9・5cm、直径約8cm)

東京都在住の方から寄贈をいただいた資料です。寄贈者の御義父が戦争関係の資料を収集しており、そのコレクションの一部ということです。

埼玉県の陸軍造兵廠大宮製作所にて制作されたものといえます。この工場では風船爆弾の重要な部品である高度維持装置、アネロイド気圧計などが作られていました。全国的に風船爆弾の関係資料は終戦時に処分されているケースが多いため、あまり残されていません。町教育委員会でも所蔵している風船爆弾に直接関

係する資料は、①気球部分の破片
②打ち上げ基地の土台コンクリート片のみです。これまで気球に吊り下げられた器材部分の資料は所蔵していませんでした。風船爆弾の実態、構造を知る上で重要な資料です。



▲風船爆弾時限信管カ部分・段ボール紙
(左写真は時限信管カ部分を上から撮影したもの)

今回の放送を機に、風船爆弾に関するモノ資料のほか、多くの当時の証言や情報提供をいただきました。この場を借りて改めて御礼申し上げます。

教育委員会では引き続き証言や情報を収集してまいりますので、お心当たりのある方はぜひご一報ください。

今回紹介した資料は、左記のとおり中央公民館2階歴史資料展示室にて展示しています。また、11月には講演会を予定していますのでご興味のある方はご参加ください。

《企画展示「一宮町の『戦争』》

◆とき 12月22日(月)まで
公民館開館日・時間は見学可
※第3日曜日は休館

《戦後80年講演会

「風船爆弾とはなんだったのか」

◆とき 11月22日(土)
午後1時30分から
受付: 午後1時から
(4時頃終了予定)

◆ところ 中央公民館 大会議室

◆講師 山田朗氏

(明治大学平和教育登戸研究所
資料館館長、明治大学文学部教授)

◆定員 先着80人

※入場無料・事前申込不要

【問合せ】教育課 ☎(42)1416
(学芸員・江澤一樹)